

環境・安全推進委員会 関連活動の紹介

環境・安全推進委員会

はじめに

環境・安全推進委員会は、日本化学会研究交流部門に属し、環境・安全に関する事項の審議と事業の推進を任務とし、環境・安全に関わる人材・管理者の育成を図ることを目的としています。化学物質の総合管理に関する学際的研究と環境に優しいものづくりをベースとし、人類の発展と地球生態系保全の調和を図る化学の創造を目指して活動を行っています。ここでは例年実施している講演会、講習会ならびに現在行っている刊行物の企画等について紹介します。

環境関連イベント

環境関連イベントの柱は『環境教育シンポジウム』です。本シンポジウムは、環境教育を担う教員や環境問題に取り組む技術者・研究者を主な対象とし、毎年様々なテーマを設けて開催しています。昨年第17回「ライフサイクル思考で深める環境教育」をテーマとしてハイブリッド形式で行い、約140名の参加がありました。今年は8月1日(金)に予定されています。「PFASの基礎知識とリスクの考え方」というテーマで、日本各地での水道水汚染が問題になっているPFAS関連のタイムリーな話題を取り上げます。詳細のプログラムが確定次第、ホームページにてご案内いたします。

その性格上、『環境教育シンポジウム』は中学・高校の教員や一般人の関心も高いものと思われますので、そのような方々へ向けた情報発信が課題です。昨年は高校生1名の研究発表がプログラムに組み込まれ、参加者から好評を得ました。高校生招聘のための旅費も予算化し

てありますので、遠方からの招聘にも対応可能な態勢ができます。

『環境工学連合講演会』は日本学術会議土木工学・建築学委員会が主催し、日本化学会をはじめ多くの学協会が共催するかたちで長年続いています。第37回の今年は「先進サステイナブル社会における環境工学の役割」を総合テーマとし、地球環境・生活環境、カーボンニュートラルと資源循環をサブテーマとして5月27日(火)に日本学術会議講堂とZoomウェビナーのハイブリッド形式で開催されます。日本化学会からの推薦で、理化学研究所の村田慧ユニットリーダーの「遷移金属触媒を用いる二酸化炭素資源化反応」と題する招待講演が予定されています。

安全関連イベント

安全関連イベントの柱は『化学安全スクーリング』です。化学実験に関する安全と衛生に関して総合的に学ぶ講習会です。安全・衛生管理の基本から、事故事例やヒヤリハット、そこから導き出される教訓と、必要な改善や安全教育のあり方、化学物質に潜在する危険性と安全な取扱方法、救急対処法、廃棄物の安全管理、化学物質の毒性と予防などについて、最新情報を基に多角的な視点から講義します。令和5年度から内容を更新し、化学物質が有する3つのハザード(フィジカルハザード、健康影響、環境影響)およびリスクアセスメント・マネジメントの解説をより充実させるとともに、労働安全衛生法の法令改訂により令和6年度から化学物質取扱い事業場に選任が義務づけられる化学物質管理者が受講すべき専門的講習に求められる内容も

包含させておきます。また、講義資料のほか、テキスト(安全な実験室管理のための化学安全ノート第4版)を事前配布します。8月4日(月)~5日(火)に行います。

『安全工学シンポジウム』は日本学術会議総合工学委員会・機械工学委員会合同工学システムに関する安全・安心・リスク検討分科会が主催し、日本化学会を含む30以上の学協会が共催するかたちで毎年行われます。安全工学シンポジウム2025は6月25日(水)~27日(金)の3日間の開催予定で幹事学会は日本原子力学会です。日本化学会からはオーガナイズドセッションを提案しました。

刊行物の企画

「化学安全ノート」は長年『化学安全スクーリング』の副読本として使用されてきましたが、昨年8月に改訂第4版を刊行することができました。今回の改訂においては、特に労働安全衛生法の法令改訂により、職場における化学物質の管理において、危険性・有害性が確認されたすべての化学物質に対して自律的な管理と呼ばれる事業者自らがリスクアセスメントを実施する方式に転換したことを反映させました。

「化学実験の安全指針」は1999年の刊行以来すでに26年が経過したことでもあって大幅な改訂作業が必要とされます。現在、原稿がほぼ出揃い査読を行っている段階であり、今年度中の発行を目指しています。

E-mail: env_safe@chemistry.or.jp

〔環境・安全推進委員会 委員長
辰巳 敬(東京工業大学 名誉教授)〕

© 2025 The Chemical Society of Japan